

TECHNICAL DATA

仕上げの種類	超耐候・超低汚染形水系無機有機複合塗料
製品名	無機ガードZ

下塗材： エポキシ変性アクリル樹脂エマルション系下塗材
「キクスイ プライマー スーパーE」

第5版 作成日： 2014年12月25日



菊水化学工業株式会社

標準施工仕様書

- 仕上げの種類 : 超耐候・超低汚染形水系無機有機複合塗料
- 製品名 : 無機ガードZ
- 素地 : コンクリート・セメントモルタル 等
- 部位 : 内外部壁面
- 仕上がり形状 : 平滑仕上げ
- 工程

新規下地

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間 (20℃)	所要量
素地調整	ゴミ、未硬化セメント粉末、砂塵、油脂分などの付着物をワイヤーブラシ、かわすきサンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とします。				
下塗り	キクスイ プライマー スーパーE 主 材：15kg 無希釈	エアレススプレー ウールローラー 刷毛	1	3以上	80～150 m ² /15kg 0.10～0.19kg/m ²
上塗り	無機ガードZ 主 材：15kg 硬化剤：1kg 清 水：0～1.6%	エアレススプレー ウールローラー 刷毛	2	工程内 5～7 2 (3日)	44～53 m ² /16kg 0.30～0.36kg/m ²

注1 施工用具・条件は代表的なものです。

注2 間隔時間・所要量の値は標準的なものです。施工方法・器具、被塗物の形状、素地の状態、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。

注3 所要量の確認は塗見本との比較または単位体積当たりの使用量で確認して下さい。

《無機ガードZの可使時間と塗装間隔時間》

季節	気温	可使時間	塗装間隔
夏	25～35℃	2時間以内	3時間以上～3日以内
春・秋	15～25℃	4時間以内	5時間以上～3日以内
冬	5～15℃	6時間以内	8時間以上～5日以内

● 荷 姿

下塗材：	キクスイ プライマー スーパーE	NET：	15 kg/缶
上塗材：	無機ガードZ	主 材	NET： 15 kg/缶
		硬化剤	NET： 1 kg/缶

成分表

●下塗材： キクスイ プライマースーパーE

内 容	重量 (%)
エポキシ変性アクリル樹脂エマルジョン	100.0
計	100.0

●上 塗 材：無機ガードZ

【主 材】

オルガノポリシロキサン変性樹脂	28.1
着色顔料	17.6
添加剤	5.9
水	48.4
計	100.0

【硬 化 剤】

エポキシ変性シラン化合物	37.5
添加剤	62.5
計	100.0

性能試験成績書

仕上りの種類	超耐候・超低汚染形水系無機有機複合塗料		
商品名	スーパー無機ガードZ		
供試材料	下塗材：キクスイ プライマー スーパーE 上塗材：無機ガードZ		
試験方法	JIS K 5660-2003 に準拠		
項目	品 質	結 果	
容器の中での状態	かき混ぜたとき、堅い塊がなくて一様になるものとする。	合 格	
低温安定性(-5℃)	変質しないものとする。	合 格	
塗装作業性	2回塗り、はけ塗り塗装作業に支障があってはならない。	合 格	
乾燥時間	標準状態	2時間以内	1
	(5℃)	4時間以内	3
塗膜の外観	塗膜の外観が正常であるものとする。	合 格	
隠ぺい率%[白及び淡彩]	95以上	97	
鏡面光沢度(60度)	70以上	90	
耐水性	96時間浸したとき光沢保持率が80%以上で、塗面に異常がないものとする。	合 格	
耐アルカリ性	7日間浸したとき光沢保持率が65%以上で、塗面に異常がないものとする。	合 格	
耐洗浄性	1000回の洗浄に耐えるものとする。	合 格	
耐湿潤冷熱繰り返し性	光沢保持率が80%以上で、湿潤冷熱繰り返しに耐えるものとする。	合 格	
促進耐候性	480時間の試験で光沢保持率が60%以上、白亜化の等級は1以下で、色の変化の程度が見本品に比べて大きくないものとする。	合 格	
屋外暴露耐候性	12か月の試験で、白亜化の等級は2以下で、割れ・はがれ・膨れ及び穴がなく、色とつやの変化の程度が見本品に比べて大きくないものとする。	合 格	
耐屈曲性	JIS K 5600 5.1 耐屈曲性	合 格	
塗膜硬度	JIS K 5600 5.4 引っかき硬度(鉛筆法)	H	
耐酸性	JIS K 5600 6.1 耐酸性(7日)	合 格	
強制汚染	土研式 ウェットカーボン汚染試験に準拠	合 格	

*上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承ください。

施工にあたっての要点

●下地

- 【1】 下地がコンクリート、モルタルの場合は素地の乾燥は十分行ない、含水率 10%以下、pH 10 以下で施工して下さい。
- 【2】 外部の下地で巣穴、段差などがある場合、セメント系下地調整塗材「BR # 1 5」等で処理して下さい。
- 【3】 押出成形セメント板、GRC 板などには、下塗材として「キクスイ プライマー E P W」を使用して下さい。
- 【4】 ALC パネル、多孔質下地、粗面、その他下地に問題がある場合にはセメント系下地調整塗材「BR # 1 5」等で下地処理を行なって下さい。
- 【5】 下地のひび割れ、破損、浮きなどは BR 工法等で適切な処理をして下さい。
- 【6】 旧塗膜の浮き・剥がれ・チョーキング層等は除去してから施工して下さい。
- 【7】 吸い込みが大きい下地、部分的に下地調整を行なった面が他の面と比べて著しい吸い込み差を生じる下地、並びに下地がケイ酸カルシウム板、スレート板等の場合には適切な下塗材の選択が必要です。
- 【8】 シーリング材の上に施工する場合、シーリング材の種類等により、汚染や密着不良を起こすことがあります。詳しくは弊社営業所までお問い合わせ下さい。

●施工

- 【1】 色・模様決定に当たっては、原則として塗見本を作製して、工事監理者の承認を受けて下さい。
- 【2】 塗見本は、必要に応じて工程ごとに手順が分かるものとします。
- 【3】 所定の塗付量に達しない場合や超えてしまう場合には、種々の欠陥を生じる場合があります。所定の塗付量を守って施工して下さい。

●材料

- 【1】 材料は直射日光下及び 0℃ 以下での保管は避けて下さい。
- 【2】 溶剤系の製品を取り扱う場合は特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守して下さい。
- 【3】 施工時は換気を十分行なって下さい。

●工法

1. 材料の取扱い

- 【1】 製品は使用前に均一にミキサーで混ぜ合わせて下さい。
- 【2】 希釈の必要な製品は指定の希釈材を使用し適切な量、適切な方法で均一に薄めて下さい。
- 【3】 2液形の製品は、主材と硬化剤を指定の比率で調合し、ミキサーで混ぜ合わせて下さい。特に小分けでご使用の場合は計量器で正確に計量を行なって下さい。混合後の製品は、可使時間以内に使い切ってください。また、可使時間は温度、希釈によって変わりますので、混合後はなるべく早く使い切ってください。
- 【4】 既調合タイプの材料を希釈したり、他の材料と混合しないで下さい。
- 【5】 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細はMSDS（安全データシート、旧MSDS）を参照して下さい。

2. 下塗り

- 【1】 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付けて下さい。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付して下さい。

3. 主材塗り

- 【1】 主材塗り見本と同様となるように注意して、施工を行なって下さい。

4. 上塗り

- 【1】 上塗材は、2回塗りを標準とし、色むら、だれ、光沢むらのないよう均一に塗り付けて下さい。
- 【2】 上塗材の希釈率は試験塗りなどにより決定し、それ以降は同一の希釈率で使用して下さい。希釈率は色相及び施工時の気温により変化します。

5. 施工方法

- 【1】 各種標準施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工して下さい。

●施工管理

- 【1】 施工場所の気温が5°C以下、湿度が85%以上又は結露の発生が考えられる場合は、塗膜の乾燥過程で種々の欠陥を生じることがありますので、施工を避けて下さい。
- 【2】 降雨、結露、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を避けて下さい。
- 【3】 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度を上昇を防止して下さい。
- 【4】 施工しない箇所はあらかじめ養生をし、その他の材料が付着しないようにして下さい。

●その他の注意事項

- 【1】 施工器具等の洗浄水が、河川に流出したり、土壌にしみ込まないようにして下さい。
- 【2】 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず塗装面のマスキングを行って下さい。
- 【3】 刷毛、ローラー、スプレー等、施工方法により若干の色相差を生じることがあります。
- 【4】 軽量モルタル、ALC パネル、高断熱型窯業系サイディング及び発泡ウレタンなどに施工する場合は、蓄熱したり、水の影響や、下地の状態、塗装時の環境など条件により、塗膜の膨れ、はがれなどが生じることがあります。
- 【5】 JIS A 6909 建築用仕上塗材 複層仕上げ塗材は、下塗材・主材・上塗材を同一メーカーの指定された製品を使用しないと、JIS 規格品ではありません。
- 【6】 艶調整品は被塗物の形状、膜厚や色目、塗回数、希釈率により、つやが異なって見える場合があります。また、刷毛・ローラー塗装時の塗継ぎ箇所ですら艶ムラを生じやすい傾向にあります。試し塗りの上、本施工して下さい。
- 【7】 濃色や原色に近い色彩は、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類などに触れる可能性のある部位への施工は避けて下さい。
- 【8】 上塗りに黄色、赤色、青色、緑色系など彩度の高い色目を塗装する場合は、隠ぺい性を高めるため、あらかじめ隠ぺいの良い共色を塗装して下さい。
- 【9】 彩度の高い色目は、退色、色むらが早期に生じることがあります。
- 【10】 旧塗膜の種類により、下塗材を選定して下さい。

*本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照するようにして下さい。